

土本典昭フィルムグラフィ展2004 at 国際交流基金フォーラム (赤坂)

TSUCHIMOTO Noriaki Filmography 2004 at the Japan Foundation Forum

特集「国境をこえる真実、土本典昭とアジアのドキュメンタリー」

いまアジアで注目される2人の映画作家、カンボジアのリティー・パニュと韓国のキム・ドンウォンを招待し、日本を代表する映画作家・土本典昭と「アジアのドキュメンタリー」について語るシンポジウムを開催。あわせて、3人の「国境をこえる」新作映画を特集上映する。

7月17日 (土)		13:30～ S21 クメール・ルージュの 虐殺者たち 2002	16:00～ 送還日記 2003	19:00～ みなまた日記―甦える魂を訪ねて 2004
7月18日 (日)	11:00～ みなまた日記 ―甦える魂を訪ねて 2004	13:30～ S21 クメール・ルージュの 虐殺者たち 2002	16:00～ 特別シンポジウム	18:30～ 送還日記 2003

● チケット料金は国際交流基金フォーラム／アテネ・フランセ文化センター2会場共通です。
● シンポジウムは1回分のチケットでご覧いただけます。
■ 各回15分前開場 ■ 各回入替制

● 特別シンポジウム 7月18日 (日) 16:00開演 (18:00終了予定)

リティー・パニュ (カンボジア) ※予定 キム・ドンウォン (韓国) 土本典昭 (日本)



リティー・パニュ Rithy Panh
プノンペン生まれ。フランス国立高等映画学院 (IDHEC) 卒業。90年代からカンヌ国際映画祭などに出品し、国際的に注目される。山形国際ドキュメンタリー映画祭で「さすらう者たちの地」(2001年度口パート & フランシス・フラハティ賞【グランプリ】受賞)『S21 クメール・ルージュの虐殺者たち」(2003年度優秀賞受賞)が連続受賞するなど、いまアジアで最も重要な作家のひとりである。



S21 クメール・ルージュの虐殺者たち
S21, the Khmer Rouge Killing Machine
フランス/2002/カンボジア語／カラー／ビデオ／101分
カンボジアのクメール・ルージュ政権下の政治犯収容所「S21」。1万7千人もの囚人が拷問を受け、処刑され、生き残りはたった3人である。この映画は大虐殺の生存者と拷問した加害者をつつての「S21」に集め、二者を対峙させる。そして、人々の記憶を次々に再現させることによって、闇に葬られた真実を鮮やかに甦えらせる。



キム・ドンウォン Kim Dong-won
ソウル生まれ。商業映画の助監督を経て、1991年にドキュメンタリー映画製作集団「フリン・プロダクション」を設立。以来、民主化運動や南北分断問題に関する作品など、約30本のドキュメンタリーを製作・監督している。2003年度山形国際ドキュメンタリー映画祭に「アジア千波万波」審査員として参加し、新作「送還日記」を発表。歴史に翻弄された人々にむける監督の優しいまなざしに、満員の観客は感動の拍手を贈り続けた。



送還日記 A Repatriation
韓国／2003／韓国語／カラー／ビデオ／149分
1992年、監督は二人の思想犯と出会う。二人はかつて北朝鮮の政治工作員 (スパイ) として韓国に送られ、逮捕された後、30年間の獄中生活でも転向しない (共産主義思想を変えない) まま出所したのであった。スパイのイメージとあまりに違う彼らに関心をもった監督は、彼らの人生を取材し続けることによって、分断国家に生きる人々の真情に迫っていく。

■ 会場
国際交流基金フォーラム TEL:03-5562-4096 東京都港区赤坂2-17-22赤坂ツインタワー1F http://www.jpf.go.jp/j/

※土本典昭監督作品「みなまた日記―甦える魂を訪ねて」の解説は裏面にあります。

土本典昭フィルムグラフィ展2004 at 川崎市市民ミュージアム

共催:川崎市市民ミュージアム

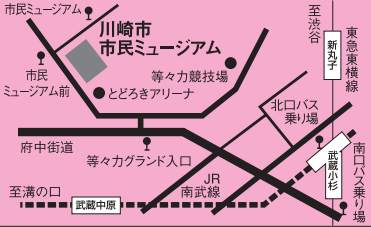
TSUCHIMOTO Noriaki Filmography 2004 at Kawasaki City Museum

特集「土本典昭テレビ作品」

土本典昭はテレビ作品でも自由だ。オクラ入りさせられた日本発見シリーズ『東京都』をはじめ、すべてに「作家・土本典昭」が刻印されている。

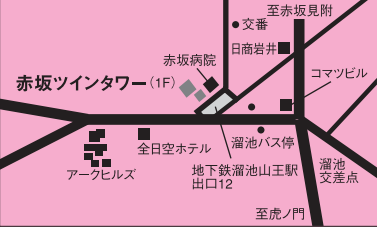
	■ 各回15分前開場 ■ 各回入替制 ※上映作品解説は裏面にあります。	チケット料金: 一般500円 小中学生300円
8月22日 (日)	13:30～ 年輪の秘密シリーズ 出雲かぐら 久留米がすり 有田の陶工たち 博多人形 1959 江戸小紋と伊勢型紙 糸あやつり 京のたべもの 1960	16:00～ ノンフィクション劇場 市民戦争 1965 生きている人間旅行 日本の教育1976 少年は何を殺したか 前篇/後篇 1976 生きものばんざい第204話・ 育て零才!クルマエビ 1977
8月28日 (土)	13:30～ 日本発見シリーズ・三重県 佐賀県 大分県 1961	16:00～ 日本発見シリーズ・鹿児島県 山梨県 東京都 1962
8月29日 (日)	13:30～ 日本発見シリーズ・鹿児島県 山梨県 1961 東京都 1962	16:00～ 日本発見シリーズ・三重県 佐賀県 大分県 1961

川崎市市民ミュージアム映像ホール



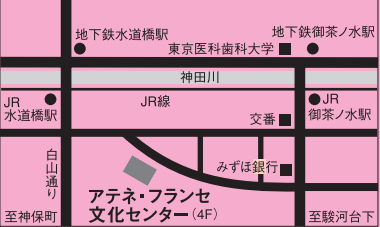
交通:東急東横線・目黒線、JR南武線「武蔵小杉」駅下車
北口1番乗り場より川崎市バスにて「市民ミュージアム前」下車
南口「東横線小杉駅」停留所より東急バス・市民ミュージアム行き「終点」下車

国際交流基金フォーラム (赤坂ツインタワー1F)



地下鉄銀座線・南北線「溜池山王」駅12番出口より1分
都営バス#01渋谷―新橋線「溜池」下車2分

アテネ・フランセ文化センター



JR/地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅徒歩7分

デザイン 伊勢功治

土本典昭フィルムグラフィ展2004 at アテネ・フランセ文化センター (御茶ノ水)

TSUCHIMOTO Noriaki Filmography 2004 at Athénée Français Cultural Center

土本典昭全46作品一挙上映＋ドキュメンタリー映画をめぐるシンポジウム

2004年7月23日 (金) ～8月14日 (土) (日曜休館)

7月23日 金	14:30～ ある機関助士 1963	15:40～ ドキュメント路上 1964	17:10～ 水俣の子は生きている 1965 留学生チュア スイリン 1965	19:00～ 第1回シンポジウム
7月24日 土	13:30～ シベリア人の世界 1968	15:40～ パルチザン前史 1969	18:10～ 水俣―患者さんとその世界― 1971	
7月26日 月		17:40～ 水俣レポート1 実録 公調委 1973	19:00～ 水俣―揆―一生を問う人びと― 1973	
7月27日 火	医学としての水俣病―三部作― 14:40～ 第一部 資料・証言篇 1974	16:40～ 第二部 病理・病像篇 1974	19:00～ 第三部 臨床・疫学篇 1975	
7月28日 水	15:00～ 不知火海 1975	18:10～ 水俣病=その20年= 1976	19:30～ 育て零才!クルマエビ しばられた手の祈り 1977	
7月29日 木	16:10～ わが街わが青春 ―石川さゆり水俣熱唱― 1978	17:30～ 日本の若者はいま 1979 偲ぶ・中野重治―葬儀・告別式の記録― 1978年9月8日 1979	19:30～ 海とお月さまたち 1980	
7月30日 金	14:40～ 水俣の図・物語 1981	17:10～ こんにちは アセアン 原発切抜帖 1982	19:00～ 海盗り―下北半島・浜閨根― 1984	
7月31日 土	14:50～ はじけ鳳仙花 ―わが筑豊、わが朝鮮― 1984 日本―ぶりの里 訪問記 1986	16:40～ 水俣病―その30年― 1987	18:00～ 第2回シンポジウム	
8月2日 月	14:40～ ひろしまを見たひと ～原爆の図丸木美術館～ 1985 ビデオ絵本 ひろしまのピカ 1987	16:00～ よみがえれカレーズ 1989	18:30～ 存亡の海オホーツク ―8mm旅日記 ロシア漁民世界をめぐる― 1994	
8月3日 火	15:20～ 回想・川本輝夫 ミナマター井戸を掘ったひと 1999	16:40～ 在りし日のカーブル博物館1988年 2003 もうひとつのアフガニスタン カーブル日記1985年 2003	18:30～ みなまた日記―甦える魂を訪ねて 2004	
8月4日 水	13:30～ 年輪の秘密シリーズ 1959～1960 「出雲かぐら」他6作品	16:00～ 日本発見シリーズ・三重県 1961 日本発見シリーズ・佐賀県 1961 日本発見シリーズ・大分県 1961	18:00～ 日本発見シリーズ・鹿児島県 1961 日本発見シリーズ・山梨県 1961 日本発見シリーズ・東京都 1962	20:00～ ある機関助士 1963
8月5日 木	15:40～ ドキュメント路上 1964	17:10～ 水俣の子は生きている 留学生チュア スイリン 1965	19:00～ シベリア人の世界 1968	
8月6日 金	14:10～ パルチザン前史 1969	16:40～ 水俣―患者さんとその世界― 1971	20:00～ 水俣レポート1 実録 公調委 1973	
8月7日 土	13:10～ 水俣―揆―一生を問う人びと― 1973	15:30～ 不知火海 1975	18:40～ 第3回シンポジウム	
8月9日 月	医学としての水俣病―三部作― 14:40～ 第一部 資料・証言篇 1974	16:40～ 第二部 病理・病像篇 1974	19:00～ 第三部 臨床・疫学篇 1975	
8月10日 火	16:20～ 水俣病=その20年= 1976	17:40～ わが街わが青春 ―石川さゆり水俣熱唱― 1978	19:00～ 日本の若者はいま 1979 偲ぶ・中野重治―葬儀・告別式の記録― 1978年9月8日 1979	
8月11日 水	15:10～ 海とお月さまたち 1980	16:30～ 水俣の図・物語 1981	19:00～ こんにちは アセアン 原発切抜帖 1982	
8月12日 木	15:50～ 海盗り―下北半島・浜閨根― 1984	18:10～ はじけ鳳仙花―わが筑豊、わが朝鮮― 1984 日本―ぶりの里 訪問記 1986	20:00～ 水俣病―その30年― 1987	
8月13日 金	15:00～ よみがえれカレーズ 1989	17:30～ 存亡の海オホーツク 1994 ―8mm旅日記 ロシア漁民世界をめぐる―	20:00～ 回想・川本輝夫 ミナマター井戸を掘ったひと 1999	
8月14日 土	13:00～ 在りし日のカーブル博物館1988年 2003 もうひとつのアフガニスタン カーブル日記1985年 2003	14:50～ みなまた日記―甦える魂を訪ねて 2004	17:30～ 第4回シンポジウム	■ 各回入替制

■お問合せ
土本典昭フィルムグラフィ展2004実行委員会事務局 TEL: 03-5343-3101 FAX: 03-5343-3102 siglo@cine.co.jp
〒164-0001 東京都中野区中野5-24-16中野第二コーポ210 シグロ内 URL: http://www.cine.co.jp/tsuchimoto/

第1回シンポジウム

7月23日 (金) 19:00～

記録とは何か

～土本典昭作品が問い続けてきたもの～

黒木和雄 映画監督。岩波映画製作所・青の会からの親友であり、信頼できる相談相手である。今夏、新作「父と暮せば」公開。

佐藤忠男 映画評論家。日本映画史に精通し、記録映画に対しても鋭い批評を展開してきた。日本映画学校校長。

土本典昭

第2回シンポジウム

7月31日 (土) 18:00～

ある映画プロデューサーの証言

～土本典昭フィルムグラフィは、いかに作られたか～

高木隆太郎 映画プロデューサー。元青林舎代表。土本典昭の60年代から80年代にかけての水俣シリーズを製作した。

時枝俊江 記録映画監督。岩波映画時代から現在に至るまで、土本典昭と時代を併走した。土本の素顔を知る貴重な人である。

土本典昭

第3回シンポジウム

8月7日 (土) 18:40～

テレビとドキュメンタリー映画

～表現におけるタブーと規制をめぐる～

田原総一朗 ジャーナリスト。岩波映画、テレビ東京を経て、フリーに。優れたディレクターとして数々の傑作ドキュメンタリーを製作。

森達也 映画監督・作家。「放送禁止歌」などの作品でテレビ界のタブーに挑戦した後、オウムを記録した衝撃作「A」「A2」を発表。

土本典昭

第4回シンポジウム

8月14日 (土) 17:30～

日本のドキュメンタリー映画に未来はあるか

～新しい表現の可能性をもとめて～

今田哲史 映画監督。今年、ハンセン氏病患者の人生を記録した「熊世の遺言」を公開。現在、原一男監督の新作の助監督を務める。

鈴木志郎康 詩人・映画作家・映画評論家。個人映画を撮る作家として、映画を批評する観察者として、現在の状況をどう分析するのか。

藤原敏史 ドキュメンタリー作家・映画批評。昨年か、監督として土本典昭の全貌に迫る長編ドキュメンタリーを撮り続けている。

土本典昭

■会場 アテネ・フランセ文化センター
東京都千代田区神田駿河台2-11アテネ・フランセ 4F
TEL. 03-3291-4339 (13:00-20:00)
www.athenee.net/culturalcenter/

国際交流基金フォーラム／アテネ・フランセ文化センター 2会場共通チケット料金

- 前売券
〈一般〉1回券1000円／3回券2700円
10回券8000円
〈学生〉1回券 900円／3回券2400円
10回券7000円
- 当日券 〈均一料金〉1回券 1200円
3回券 3300円 10回券10000円
- 前売券はアテネ・フランセ文化センター／チケットぴあで発売中
- 電話予約は土本典昭フィルムグラフィ展2004実行委員会事務局で7/16 (金) まで受付中
- 国際交流基金フォーラム／アテネ・フランセ文化センターとも、シンポジウムは1回分のチケットでご覧いただけます。
- アテネ・フランセ文化センター会員は、アテネ・フランセ文化センターでのプログラムを1回800円 (当日) でご覧いただけます。
- 川崎市市民ミュージアムのチケットは別料金になります。